

令和5年度事業計画書

自 令和5年4月 1日
至 令和6年3月31日

一般財団法人 AVCC

目次

デジタル社会をどう生きるか、どう働くか	4
1 自ら考え行動するデジタル人材を育む	5
2 Advanced Valuableコミュニケーションの社会実装	6
3 KK²ブレンデッドラーニングによる人材育成支援	7
4 誰も置き去りにしないデジタル社会の実現	8
5 組織のデジタル化支援	8
I 自ら考え行動するデジタル人材を育む	10
(1) 「デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～」企画・開催	10
(2) 「KK ² キャリア相談室」の開設	11
(3) メールマガジン「メッセージfrom KK ² 」の発行～多彩な執筆者によるメッセージ～	11
(4) レジリエントを高めるプログラムの開発・提供	11
(5) デジタル社会における情報セキュリティ・個人情報保護	12
(6) デジタル公民館®活動	12
(7) 「IoT道場～RaspberryPiとPythonでIoTに挑戦！～」開発・提供	14
II Advanced Valuableコミュニケーションの社会実装	22
(1) 「しごと力向上ライブラリ」の開発・提供	22
(2) 自治体DX推進支援	22
(3) NICE-NET教育番組制作	25
(4) 新NICE-NETサービス	25
(5) TV会議システム／Web会議システムの構築、運用、保守管理業務	27
(6) 動画教育教材の企画・制作業務	28
(7) 各種運営支援業務（映像情報システムの構築、運用、保守管理業務）	29
III KK²ブレンデッドラーニングによる人材育成支援	30
(1) 組織内でのデジタル寺子屋	30
(2) KK ² DPPによるブレンデッドラーニング	31
(3) 「KK ² 協賛メンバーページ」の提供	34
(4) 教育機関への働きかけ	34
IV 誰も置き去りにしないデジタル社会へ	35
(1) コミュニケーション環境整備支援（インフラ）	35
(2) デジタル公民館®プラットフォーム	36
(3) テレポーサイ・サービス（情報格差是正支援）	37
(4) 「大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定」（東京都千代田区）	38

V	組織のデジタル化支援	39
	(1) 法人向けデジタル化支援事業	39
	(2) KK ² オンラインイベント支援事業	40
	(3) デジタル情報発信・運営の支援	42
VI	ステークホルダーとの関係	43
	(1) AVCC賛助会、KK ² 協賛メンバーとの連携強化	43
	(2) MOU締結組織	43
	(3) KK ² Web会員	44
	(4) 文部科学省発行「マナビィ・メールマガジン」定期掲載	44
	(5) 霞が関7号館PFI株式会社との事業連携	44
	(6) 「千代田区霞が関三丁目町会」活動（東京都千代田区）	44
	(7) 社会への情報発信	44

デジタル社会をどう生きるか、どう働くか

昨年8月、私たちはSociety5.0をデジタル社会と呼び、事業目的を「この法人は、自ら考え行動するデジタル人材を育み、劇的なパラダイムチェンジにしなやかに対応できるレジリエントな地域・コミュニティの実現を目的とする。人間と自然が調和しリアル空間とバーチャル空間が高度に融合したデジタル社会の深化と、有用性の高いコミュニケーション・教育訓練に関するコンサルティングを行い、その社会実装を支援する。」と更新、一般財団法人 **AVCC (Advanced Valuable Communication Center)** として新たなスタートをきりました。令和5年度は「デジタル社会をどう生きるか、どう働くか」を共に考えデジタル社会の深化に寄与してまいります。

日本では、コロナ禍でリモートワークが広がり生産性が落ちたという評価もあり、感染が一段落するやいなやリアル勤務に戻した企業も多いようです。Society3.0:工業社会で強みを発揮した「みんなで一緒に仕事をする」良さは勿論重要です。一方、リモートワークの経験を通して「仕事ができる人」と「仕事ができない人」との働き方の違いが浮き彫りになりました。仕事ができる人は、周辺業務をIT活用で効率化し、社内外の仕事ができる人を上手に巻き込み、責任持ってプロジェクトや業務を請け負う働き方を実践しています。このように組織に属しつつまとまった仕事を担う働き方について、「メンバーシップ型」でも「ジョブ型」でもない「自営型*」と表すようですが、デジタル社会の働き方とも言えます。リモートワークの普及は雇用と自営のボーダレスを生み、労働時間管理や給与制度との整合といった矛盾を生むため、本人承諾のもとで雇用から業務委託に切り替える選択肢も生まれました。

組織とスタッフが整う大組織よりも、人手が恒常的に不足している中小零細組織では、一人の社員が複数の業務を多能工として担当する「自営型」の働き方がよりなじみやすいとも言えます。「仕事に人がつく」欧米や大組織と違い、「人に仕事がつく」日本企業とりわけ中小零細組織では、リモートワークをきっかけとする「働き方改革」を、中小零細組織が飛躍する好機と前向き捉えることできるのではないのでしょうか。

*参考文献 太田肇著『リモートワークは日本人の働き方をどう変えるか』三田評論 2023.02

1 自ら考え行動するデジタル人材を育む

Society3.0:工業社会～Society4.0:情報社会への過渡期の昭和48年、ある大卒新入社員に上司が最初に下した指示は自宅で新聞を二紙取ることでした。入社すると、その日のニュースの中から「どうする君なら？」と口頭試問が毎日繰り返されました。新入社員は朝少なくとも1時間は新聞を広げ、見出しを眺めチェックし自分に必要な情報の取捨選択を身に着けました。

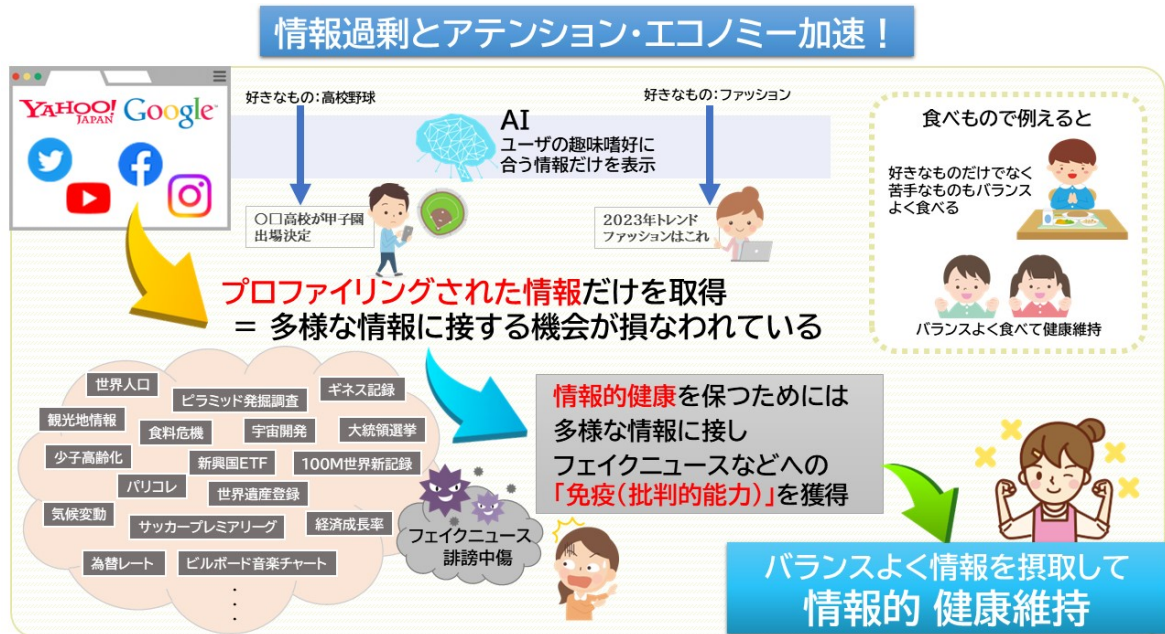


図-1 自ら考え行動するデジタル人材

デジタル社会を迎え、情報提供者・情報量は指数関数的に拡大し情報過剰時代となりました。情報を鵜呑みにせず考え咀嚼し消化する時間が圧倒的に不足しています。SNSは一般市民に開かれた無料のプラットフォームをもたらしましたが、一方でフェイクニュース、誹謗中傷、エコーチェンバー*等の被害も目に付くようになってきました。

*エコーチェンバー (Echo chamber)

SNSで「同じ趣味・思想の人とつながることができる」場で起こりやすい現象といわれ、信じた情報を信じ、自分の意見を「正しい」と強固に信じこむことで、自分とは異なる考え方を排除することにもつながります。異なる意見を持つ者同士の対話が阻害され断絶が生まれてしまう。

アテンションエコノミー*が加速し、多くの情報提供者はサイト横断的に情報を集めて一人ひとりの属性や好みを予測・分析(プロファイリング)します。自分で選択した情報というよ

りも、予測された自分自身の興味というフィルターを透した情報に日々接していることになり、真に多様な情報を取捨選択しているとは言えなくなっています。

***アテンションエコノミー**

提唱者：昭和44年ノーベル経済学賞を受賞した心理学者・経済学者ハーバート・サイモン

『経済が消費経済から情報経済へ移行すると同時に、私たちの限られた「アテンション=注意」が貴重な資源へと変容し、それが「通貨」のように扱われるようになると予測した。』

Society5.0:デジタル社会は人間中心の社会と謳っていますが、科学技術の急速な発展の陰で、人間自身を取り残されています。「自ら考え行動するデジタル人材」とは、変化にシなやかに対応し自らを常にアップデートし続ける人材、情報提供者の特性を見極め知らないことは恥とせず、多様な情報から必要な情報を選択し咀嚼し自分で考え行動する人材、情報摂取のバランスをとることでフェイクニュースなどへの「免疫」を獲得する人材です。『情報的健康*』（インフォメーション・ヘルス）を保有する人材とも言えます。

私たちは、自ら考え行動するデジタル人材の育成に取り組んでまいります。

***参考文献 鳥海不二夫、山本龍彦著**

『「デジタル空間とどう向き合うか」情報的健康の実現を目指して』日経BP

2 Advanced Valuableコミュニケーションの社会実装

Society5.0:デジタル社会、情報過剰の中で情報可処分時間が圧倒的に不足する中、自分の考えを他者に押しつける社会になってはいないでしょうか？他者に考えを伝えるだけではコミュニケーションではなく、他者の考えを知るだけでは理解ではありません。伝えられた考えと自分の考えを咀嚼し、違いを認め共通項を見出すことで理解が進みます。相互理解ができることで、Advanced Valuableコミュニケーションが成立します。

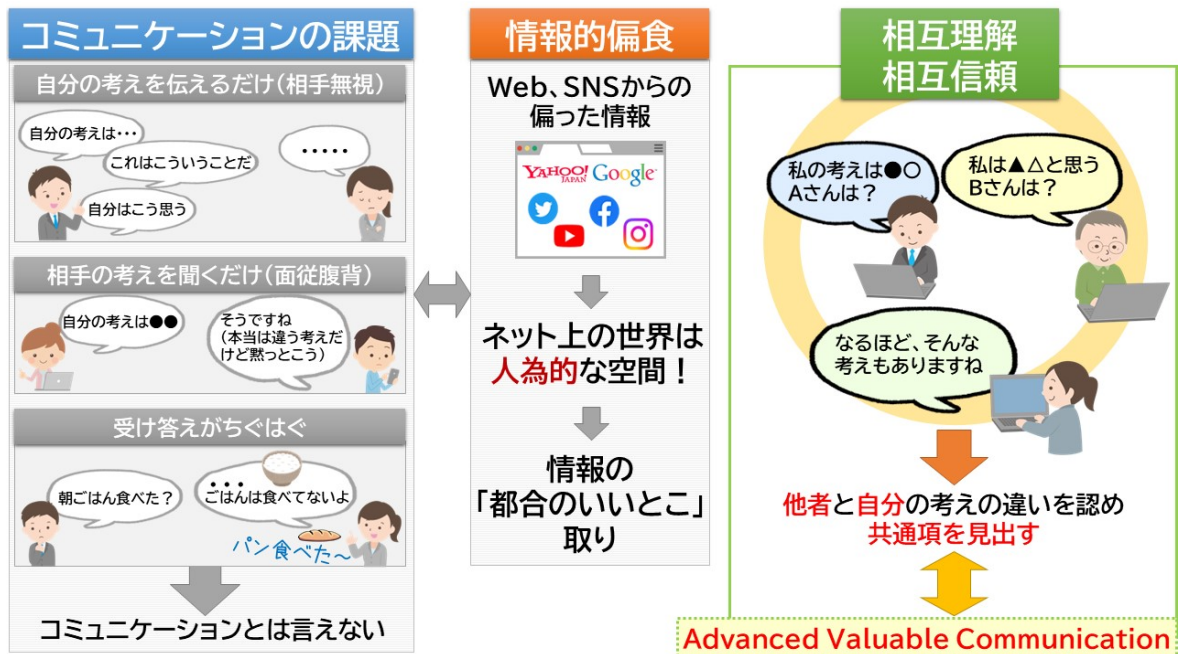


図-2 Advanced Valuableコミュニケーション

教育についても同様です。教育は、教える側の考えを押し付ける場ではありません。教える側の考えを伝え、学習者は自らの考えと照らし咀嚼する機会が与えられます。Advanced Valuableな教育とそうでない教育の一番の違いは、教える側が学習者に、考えるテーマと考える時間を与えているか？いないか？ではないでしょうか？

私たちはAdvanced Valuableコミュニケーションの社会実装を追究します。

3 KK²ブレンデッドラーニングによる人材育成支援

良い仕事をするためにはまず組織の構成メンバーの成長が大切とわかってはいるものの、人材育成に手が回らない組織は多いです。人員不足、時間不足、業務優先、予算不足等できない理由を挙げてもキリがありません。デジタル社会に通用するスタッフを育成する以外に組織が生き残る道は無いからです。

ブレンデッドラーニングによる企業内教育

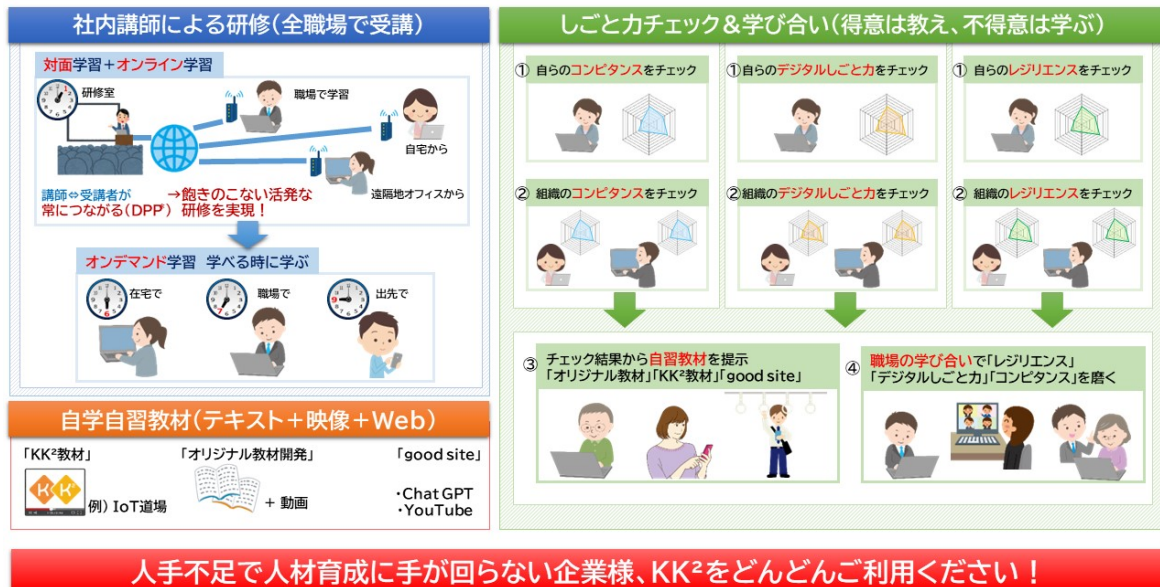


図-3 KK²ブレンデッドラーニングによる人材育成支援

私たちは、人材育成を所管するセクションやスタッフがプアな組織に対してKK²ブレンデッドラーニングの仕組みを安価で提供し、組織毎に独自の人材育成要件の整理、人材育成計画の策定、社内で自分が得意なことは教え、不得意なことは学ぶ「学び合い」の推進というサイクルをまわすことで、身の丈に合った人材育成プログラムの実践を支援します。

4 誰も置き去りにしないデジタル社会の実現

Society3.0:工業社会～Society4.0:情報社会では一億総中流意識を持つと言われた日本社会でしたが、デジタル社会では国民を分断する様々な格差が拡大しています。デジタル化によってこの分断の解消に取り組む一方でデジタル化による新たな格差も顕在化しています。人口減少社会に入り人手不足が常態化し、経済的にも厳しさが増えています。教育現場でも格差に対応する人材や予算が不足しています。今自分たちでできることは、企業や地域といったコミュニティ単位での「得意な人が苦手な人をサポートし学び合う」自立した活動しかないと考えています。

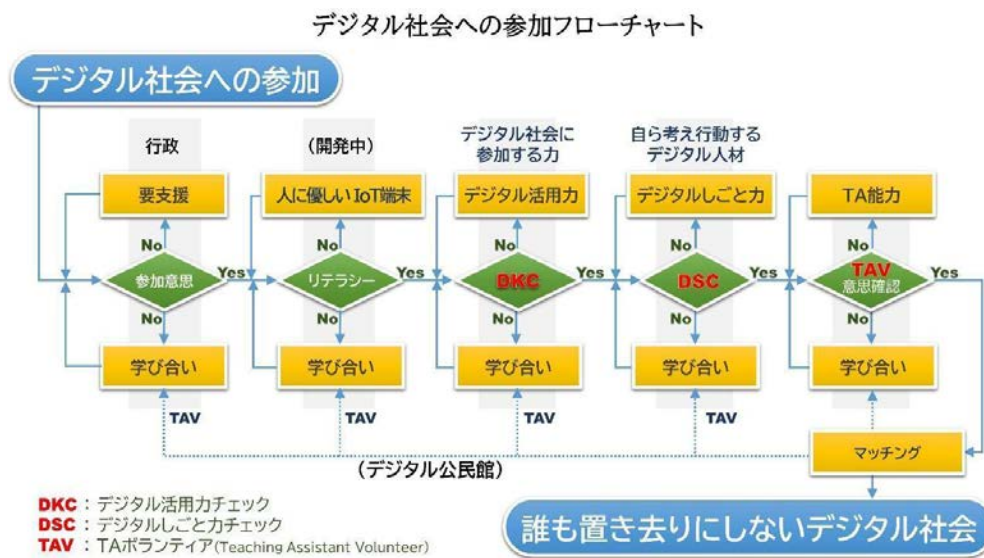


図-4 誰も置き去りにしないデジタル社会

一人ひとりが「おかげさま」の気持ちを大切に、自分が得意なことは教え、不得意なこととは学ぶことで、誰も置き去りにしないデジタル社会の実現を目指したいものです。

5 組織のデジタル化支援

デジタル人材不足はより深刻化しています。大組織との経済的な格差も広がり中小零細組織では、自前のデジタル人材の確保は難しく、DXを先送りするか、採算の取れないアウトソース費用等で苦労しています。小さな組織毎に業務改革を進め、身の丈に合ったネットワークサービスを探し導入しなければなりません。

AVCCでは「職場のデジタル化」をサポートします！

● 今の環境・・・旧システムのままで**非効率**になってはいませんか？



デジタル人材が乏しい企業のみなさまにこそおすすめ！

デジタル支援をコンサルティング



本当に必要なサービスを**カスタマイズ**！
規模に合わせて導入すべきサービスをご提案し
デジタル最適化

● デジタル化のステップ

- STEP 1 デジタル化の要件整理
- STEP 2 デジタル化計画策定
- STEP 3 導入サービスのご提案
- STEP 4 デジタル化導入
- STEP 5 デジタル化後の運用支援



● 新しい環境・・・デジタル化を推進することにより**パフォーマンスは飛躍的に向上**します！

図-5 組織のデジタル化支援

AVCCは、中小零細組織を取り残さないデジタル社会の実現を目指して、当該組織のデジタル化・DXに関する要件を整理し、デジタル化計画を策定し、導入するサービスの最適化を提案し、導入後の運用支援等を行います。

I 自ら考え行動するデジタル人材を育む

(1) 「デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～」企画・開催

KK²は、江戸時代に全国へと広がった「寺子屋」をヒントに、デジタル時代におけるTERAサイズの学びの場「[デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～](#)」をシリーズで開催しています。既存の枠組みにとらわれず新たな価値の創造や課題解決に取り組むエキスパートと共に、「デジタル社会をどう生きるか」について、参加者と共に学ぶDPPを活用した双方向プログラムです。毎回テーマを設定しエキスパートよりお話をいただいた後、モデレーターとのクロストーク、DPPで参加者より寄せられたコメント・質問で議論を深めていきます。

令和5年3月3日に野田弘子さん（公認会計士）をお招きし「[ダイバーシティなくして日本の未来なし！](#)」をテーマに第3回を開催しました。



令和5年3月3日開催 デジタルTERA小屋 野田弘子さん

令和5年度は、以下のエキスパートにご登壇いただく予定です。

令和5年度デジタルTERA小屋 開催予定（会場参加とライブ配信のハイブリッド形式）

開催予定日	エキスパート/テーマ
4月19日(水)	石井美恵子さん（災害医療スペシャリスト）「災害大国日本で考える、人権と尊厳」
5月26日(金)	山本龍彦さん（慶應義塾大学大学院 法務研究科 教授） 「情報的健康について－アテンション・エコノミーにどう向き合うか」
6月6日(火)	俣野公利さん（ANAウィングフェローズ・ヴィ王子株式会社） 「障害者雇用とダイバーシティのいま」
7月4日(火)	設楽哲也さん（農業家）「子供たちが『なりたい！』と思う農業を目指して」
9月14日(木)	黒瀬泰之さん（弁理士）「地道な努力なくして日本の未来なし！」

※テーマは変更となる可能性があります

(2) 「KK²キャリア相談室」の開設

KK²は、就職紹介ではない、キャリア相談に特化したカウンセリングが特徴で、専門資格を持ったカウンセラーに相談できる「[KK²キャリア相談室](#)」を開設しています。転職や就職はもちろん、仕事や職場で気になること、仕事と家庭とのバランスの取り方や将来についての漠然とした不安など、幅広いテーマについて第三者に安心して相談できる場です。

特定非営利活動法人日本キャリア開発協会(JCDA)様のご協力を得て、様々な経歴を持つ経験豊富な5名のカウンセラーに担当していただいています。

カウンセラー紹介

徳橋 英治 堀田 治見 垣内 啓江 田代 理恵 早坂 明美



コロナ禍を受けてオンライン限定で開催していましたが、令和4年度から一部対面を再開しました。令和5年度も利用の促進を図ってまいります。(毎週月曜日～金曜日 10時開始～20時終了)

(3) メールマガジン「メッセージfrom KK²」の発行～多彩な執筆者によるメッセージ～

KK²Web会員向けにメールマガジンを定期配信しています(毎週金曜日)。令和5年度は、メッセージの寄稿者をこれまでの4名から拡大し、様々な視点からメッセージを発信していただきます。なおメッセージはKK²Webサイトに[バックナンバーを掲載](#)、[公式YouTubeでAI読み上げ動画](#)(YouTubeへのリンク)を掲載し、音声情報としても発信しています。

令和5年度は、古賀伸明氏(元連合会長、公益社団法人国際経済労働研究所会長)に月1回定期寄稿をいただく他、AVCC理事に寄稿をいただく予定です。

(4) レジリエントを高めるプログラムの開発・提供

KK²では「変化にしなやかに対応する力」を「レジリエンス」と呼んでいます。関東大震災から100年が経過し未曾有の災害やパンデミックなど様々な課題を抱える現在、大きな変化に向き合い、共に力を合わせて課題を解決し、前に進むことができる力が求められています。令和5年度も多様な視点からレジリエンスを学ぶ機会を提供します。

-1 防災の視点からレジリエンスを学ぶプログラムの開催

レジリエンス人材育成トレーナー 鎌田修広さん（株式会社タフ・ジャパン代表）にご協力いただき、ユニークな視点でレジリエンスを学ぶプログラムを企画しています。令和5年度も年2回（8月、1月）開催予定です。

-2 霞が関坐禅会 ～自分自身と向き合ってみよう～

東京禅センター様にご協力いただき開催している[「霞が関坐禅会」](#)は、コロナ禍を受けて対面からオンラインで開催をしていましたが、令和5年3月9日、3年ぶりに対面での開催を再開しました。令和5年度は、柴田文啓さん（長野県千曲市 開眼寺住職）、並木泰淳さん（台東区 金龍寺住職）にお越しいただき、法話、坐禅についてお話を伺い、心身ともにリフレッシュできるプログラムを開催します。年3回を予定しています。

・6月22日（木）、11月9日（木）、3月7日（木）

（５）デジタル社会における情報セキュリティ・個人情報保護

以前よりAVCCでは地域・社会サービスのデジタル化を支援する事を目的とし、自治体向けに個人情報保護、情報セキュリティ監査等の情報セキュリティコンサルティング業務を実施しています。特に顧客データや特定個人情報（マイナンバー）の取り扱いには最大限の注意を払う必要があり、企業内で情報セキュリティを維持・管理する仕組みが実態に沿って適切に運用されているか診断を行います。そのほか、官公庁外郭団体や民間企業に対し、ISMS構築、プライバシーマーク認証取得支援、認証取得後の運用に関する支援を行っています。

（６）デジタル公民館®活動

AVCCはデジタル公民館®活動を地域に拡大し、デジタル化の支援を行っています。デジタルデバイドの解消と地域や住民活動の活性化支援を目的としています。

誰も置き去りにしないデジタル社会 –KK²デジタル公民館®–

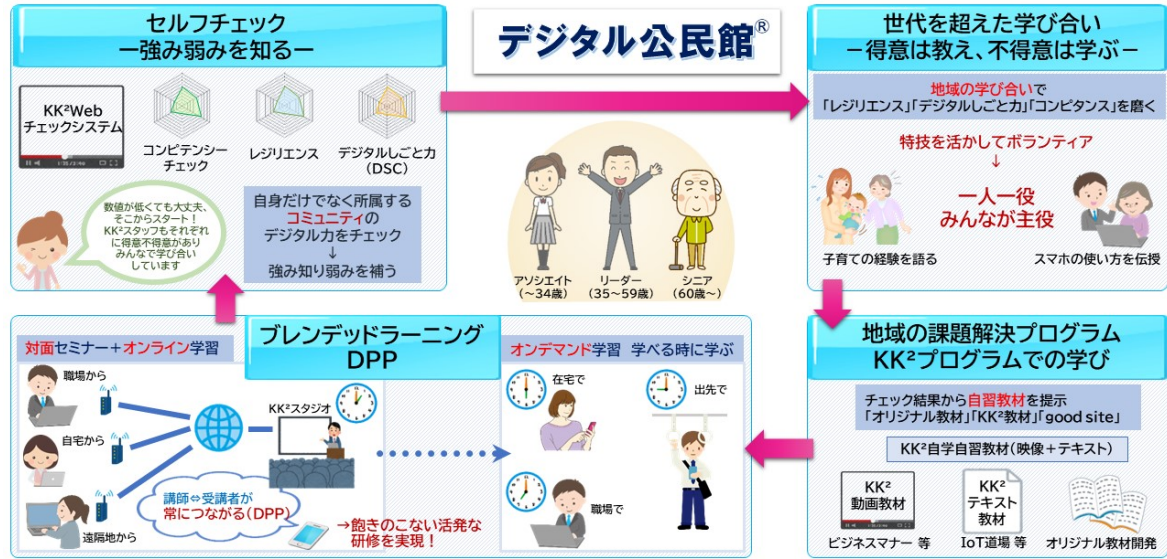


図-6 デジタル公民館®サイクル

-1 地域のデジタル公民館®活動支援 ～まっさき、やねだん～

デジタル公民館®活動の一環として、地域のデジタルデバイドの解消や地域の魅力を発信するサポートを行っています。対面とデジタルを組み合わせ、住民の方々の活動の活性化を目指しています。

①「デジタル公民館まっさき」活動（岩手県大船渡市末崎地区）

3.11東日本大震災から12年が経ちましたが、コロナ禍を受けて対面での活動は休止しており、「PCスマホよろず相談教室」は中断したままです。しかし平成25年開催「どこ竹リーダー育成実技講座」と映像教材「[竹とんぼ教室の準備と進め方](#)」により現地の高齢者が始められた「どこ竹inまっさき」は脈々と活動を続け、現在も子供からお年寄りまでの幅広い世代が参加する「竹を使ったモノづくり教室」が公民館活動として定着しています。令和5年度は、毎年12月に開催されている「門松作り」の準備編と進め方編を動画で制作し、全国に公開、発信します。また、[デジタル公民館まっさき](#)のWebサイト運営の支援も継続します。

②「デジタル公民館やねだん」活動（鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落）

やねだん自治公民館に設置したデジタル公民館機能を活用し、豊重哲郎館長が塾長を務め

る「やねだん故郷創世塾」でのオンライン活用を支援します。令和5年度もやねだんとKK²会場をオンラインで接続し「デジタル社会での地域再生」について講義を行います。「第33回やねだん故郷創世塾」（5月12日～15日開催）では、5月14日にKK²登壇者によるオンライン講義を予定しています（年2回開催）。また、[Webサイト「やねだん」](#)の運営業務も継続して行います。

-2 文化に親しみ交流する

寄席などの伝統芸能、地域の食文化の紹介など、気軽に楽しんで学べるプログラムです。令和5年度は「霞が関寄席」を会場とオンラインのハイブリッド形式で3回開催予定です。9月には収益の一部をデジタル公民館活動にご寄付をいただくチャリティ寄席を開催します。

・5月19日（金）霞が関寄席、9月1日（金）チャリティ霞が関寄席、12月8日（金）霞が関寄席

（7）「IoT道場～RaspberryPiとPythonでIoTに挑戦！～」開発・提供

IoT（Internet of Things モノのインターネット）とは、ヒトとモノをインターネットに繋ぐことにより、遠隔での状況確認やリモートコントロールが可能になることです。例えば、出先からスマートフォンでTV番組を録画することができたり、身近な課題をIoTを活用して解決することができます。AVCCでは、RaspberryPiでPythonを学ぶ「IoT道場」の教材を令和4年度開発しました。多くの方に入門いただき、自らの課題を考え解決することができるデジタル人材の育成を推進します。プログラムは、KK²Webサイトで提供し、以下2つのステップで公開を予定しています。

①Python基礎講座（無償プログラム）

学習者のPC（Windows or Mac）上でThonnyというツールを使いPythonを習得します。パソコンとインターネット環境があれば学習ができますので、特別な機材の準備は不要です。Pythonは、様々な分野や目的に応じて、過去にプログラムされたひな形のライブラリーが充実しており、その範囲は科学技術計算やAIまで幅広い分野に及びます。膨大なライブラリーを誰もが自由に無料で利用でき、積み木を組み合わせるようにして自分のプログラムを作ることが可能です。Python基礎講座ではまず、Pythonの基礎を習得します。このプログラムは学習者の自学自習を前提としておりますが、悩んだ時、困った時にチャットで問い合わせ

せに応えるTAV（Teaching Asistant Volunteer）による学習サポートを行います。

「Python基礎講座」Lesson一覧

Lesson 0	レッスンを始める前に	0-1 プログラミングとは? 0-2 Python とは? 0-3 Python のライブラリ 0-4 Raspberry Pi 400 0-5 Python の開発環境 - Thonny - 0-6 テキストの使い方 0-7 プログラムの入力について 0-8 ~ 参考文献 ~
Lesson 1	Pythonを 使ってみよう！	1-1 準備 1-2 拡張子 1-3 Pythonをはじめよう！ 1-4 Thonnyのウィンドウについて 1-5 Shellウィンドウを使ってみよう！ 1-6 Pythonの変数 1-7 Editorウィンドウを使ってみよう！ 1-8 演習！ - 変数・print
Lesson 2	データ型・文字列	2-1 Pythonの基本を学ぼう！ - input 2-2 Pythonの基本を学ぼう！ - データ型 2-3 演習！ - 文字列と変数 2-4 Pythonの基本を学ぼう！ - 文字列メソッド
Lesson 3	bool型 (True・False)	3-1 Pythonの基本を学ぼう！ - bool型 3-2 Pythonの基本を学ぼう！ - 比較演算子 3-3 Pythonの基本を学ぼう！ - 論理演算子 3-4 Pythonの基本を学ぼう！ - ショートサーキット
Lesson 4	条件分岐 (if・elif・else)	4-1 Pythonの基本を学ぼう！ - 条件分岐 4-2 演習！ - if elif else
Lesson 5	繰り返し	5-1 Pythonの基本を学ぼう！ - 繰り返し ① for in range() 5-2 Pythonの基本を学ぼう！ - 繰り返し ② while 5-3 Pythonの基本を学ぼう！ - 繰り返し ③ while True 5-4 Pythonの基本を学ぼう！ - continue・break 5-5 演習！ - while True (continue,breakの使い方)

Lesson 6	配列 ① (リスト)	6-1 Pythonの配列を学ぼう！ - リスト 6-2 Pythonの配列を学ぼう！ - リストの操作
Lesson 7	配列 ② (タプル・集合)	7-1 Pythonの配列を学ぼう！ - タプル 7-2 Pythonの配列を学ぼう！ - 集合
Lesson 8	配列 ③ (辞書・配列の繰り返し)	8-1 Pythonの配列を学ぼう！ - 辞書 8-2 Pythonの配列を学ぼう！ - 辞書の操作 8-3 Pythonの配列を学ぼう！ - 配列の繰り返し
Lesson 9	関数	9-1 プログラミングの関数とは？ 9-2 関数の定義 - 自分で関数を作成しよう！ 9-3 グローバル変数とローカル変数
Lesson 10	モジュール・パッケージ・ライブラリ	10-1 モジュール・パッケージ・ライブラリ 10-2 モジュール - import 10-3 演習！ - モジュールを使ってみよう！ 10-4 自分でモジュールを作成しよう 10-5 演習！ - モジュールの作成 10-6 パッケージを作成しよう
Lesson 11	オブジェクト指向プログラミング ①	11-1 オブジェクト指向プログラミングの概要 11-2 オブジェクトとクラス 11-3 クラスの定義 - クラス変数 11-4 演習！ - クラスの定義
Lesson 12	オブジェクト指向プログラミング ②	12-1 クラスの定義 - インスタンス変数とコンストラクタ 12-2 クラスの定義 - クラスの継承 12-3 演習！ - クラスの継承
Lesson 13	オブジェクト指向プログラミング ③ 演習	13-1 演習！ - オブジェクト指向プログラミング

②Python IoT 応用講座（有償プログラム）

Pythonのプログラミング基礎を理解できたら、「拡張基板」と「RaspberryPi400」を使い、実習しながらIoTを学びます。「RaspberryPi」がIoTに向いているのは、外部装置との信号のやりとり、電流を送ったりする40ピンI/O端子が付いていることです。この40ピンI/O

端子に接続して幾つかのIoT実習を行うことができる「拡張基板」を独自に開発しました。

「拡張基板」と「RaspberryPi400」を接続するだけでIoT実習とプログラム学習ができます。受講費は「拡張基板」と「RaspberryPi400」の購入を含めた有償となります。このプログラムは学習者の自学自習を前提としておりますが、悩んだ時、困った時にチャットで問い合わせに応えるTAV（Teaching Asistant Volunteer）による学習サポートを行います。

「Python IoT 応用講座」Lesson一覧

Lesson 14	拡張基板とは	0-1 拡張基板について 0-2 拡張基板の接続方法 0-3 拡張基板の機能 0-4 40ピン I/O 端子 0-5 電源とアースの接続 0-6 部品を実装した拡張基板とショートピンの役割 0-7 センサーの取り外し 0-8 電子回路図とGND 0-9 電気の単位 0-10 電子回路を配線する際の注意事項
Lesson 15	GPIOを使ったLED点灯	1-1 今回の学習目標！ 1-2 今回使う 40ピン I/O 端子 1-3 使用するブロック：LED_R 1-4 デバイス説明 1-5 RPi.GPIOモジュール 1-6 プログラム構造の確認 - LEDを点滅させる 1-7 プログラム入力と実行 1-8 プログラムの説明 1-9 演習！ - LEDをずっと点滅させよう！ 1-10 例外処理 - 警告メッセージの対策をしよう！
Lesson 16	単色LEDの点灯 (応用)	2-1 今回の学習目標！ 2-2 今回使う 40ピン I/O 端子 2-3 使用するブロック：LED_R/B/G 2-4 演習！ - ① 3色のLEDを順番に点滅させよう！ 2-5 演習！ - ② いろいろな点灯方法を試してみよう！
Lesson 17	単色LEDとスイッチ制	3-1 今回の学習目標！

	御	3-2 今回使う 40ピン I/O 端子 3-3 使用するブロック：LED_R/SW_1 3-4 デバイス説明 3-5 プログラム構造の確認 - スイッチでLEDを点灯する 3-6 プログラム入力と実行 3-7 プログラムの説明 3-8 プルダウンとプルアップ 3-9 プログラムでプルダウン抵抗を設定する
Lesson 18	フルカラーLEDの点灯	4-1 今回の学習目標！ 4-2 今回使う 40ピン I/O 端子 4-3 使用するブロック フルカラーLED 4-4 デバイス説明 4-5 プログラム構造の確認 - フルカラーLEDを点灯する 4-6 プログラム入力と実行 4-7 実行結果 4-8 プログラムの説明 4-9 応用：7色の色を表現する 4-10 実行結果 4-11 プログラムの説明
Lesson 19	フルカラーLEDで明るさ調整 (PWM)	5-1 今回の学習目標！ 5-2 今回使う 40ピン I/O 端子 5-3 使用するブロック フルカラーLED 5-4 LEDの明るさを調整するには？ - PWM制御 5-5 プログラム構造の確認 - PWMで明るさを制御する 5-6 プログラム入力と実行 5-7 実行結果 5-8 プログラムの説明 5-9 応用：スイッチでLEDを調光する 5-10 プログラム入力と実行 5-11 実行結果
Lesson 20	人感センサー	6-1 今回の学習目標！ 6-2 今回使う 40ピン I/O 端子 6-3 使用するブロック 人感センサー 6-4 デバイス説明 6-5 プログラム構造の確認 - 人感センサーで感知する

		6-6 プログラム入力と実行 6-7 実行結果 6-8 プログラムの説明 6-9 応用：人感センサーが検知した時にLEDを点灯する 6-10 プログラム入力と実行 6-11 実行結果
Lesson 21	温湿度センサー	7-1 今回の学習目標！ 7-2 今回使う 40ピン I/O 端子 7-3 デバイス説明 7-4 ライブラリのインストール 7-5 プログラムの構造の確認 - 温湿度センサーで計測する 7-6 プログラム入力と実行 7-7 プログラムの説明
Lesson 22	超音波センサー	8-1 今回の学習目標！ 8-2 今回使う 40ピン I/O 端子 8-3 使用するブロック 超音波センサー 8-4 デバイス説明 8-5 プログラム構造の確認 - 超音波センサーで距離の測定 8-6 プログラム入力と実行 8-7 実行結果 8-8 プログラムの説明 8-9 応用：LEDで距離を判別しましょう 8-10 プログラム入力と実行 8-11 実行結果
Lesson 23	ブザー	9-1 今回の学習目標 9-2 ブザーで使う 40ピン I/O 端子 9-3 デバイス説明 9-4 プログラム構造の確認 - ブザー音を鳴らす 9-5 プログラム入力と実行 9-6 プログラムの説明
Lesson 24	スピーカーとアンプ	10-1 今回の学習目標 10-2 スピーカーとアンプで使う 40ピン I/O 端子 10-3 デバイス説明 10-4 プログラム入力と実行 - PWMで音の大きさを変化させ

		る 10-5 演習！ - メロディとリズムを作って曲を演奏する
Lesson 25	赤外線センサー	11-1 今回の学習目標 11-2 赤外線センサーで使う 40ピン I/O 端子 11-3 デバイス説明 11-4 プログラム入力と実行 - 赤外線センサー検知 11-5 演習：赤外線センサー検知したらフルカラーLEDを点灯 11-6 プログラム入力と実行

具体的には以下の実習を行います。

- 青、緑、赤のLEDを点けたり、消したり、交互に点滅させたり、フルカラーのLEDを指定した色に点灯するプログラムの作成
- 人が近づいたらLEDが光り知らせる人感センサーシステムの作成
- 音波センサーによる距離計プログラムの作成
- 温度湿度計や赤外線を使ったプログラムの作成
- スピーカー・アンプが付いているので音楽を演奏するプログラムの作成

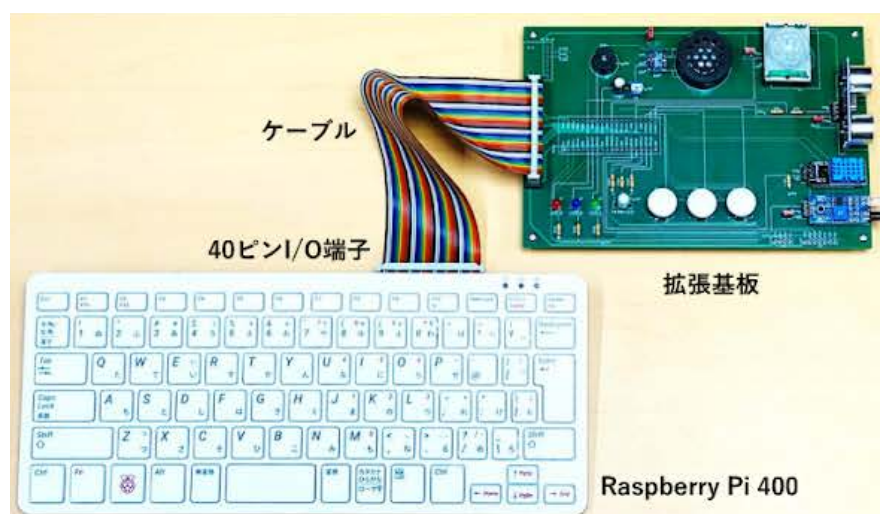


図-7 拡張基板とRaspberryPi400

教材の開発には、宇治市を拠点に「誰も取り残さないプログラミング塾『楽々電子塾』」を運営する株式会社テラユナイテッド様（MOU締結団体）にご協力をいただいています。なお、本講座は、オンラインで個別サポートを行うlearning Support System（LSS）で提供します。

Ⅱ Advanced Valuableコミュニケーションの社会実装

(1) 「しごと力向上ライブラリ」の開発・提供

KK²では「社会で活躍するために必要な力」を「しごと力」とよんでいます。知識、スキルだけでなく、Feel（人間関係力）、Think（問題解決力）、Act（行動力）の行動特性（コンピテンシー）と変化にしなやかに対応する力（レジリエンス）を含む総合的な力です。[デジタル社会において必要な「しごと力」を学べるプログラム](#)として開発し提供してまいります。

令和5年度は、「Advanced Valuable Communication」「障がい者雇用とダイバーシティ」「情報的健康」等、デジタル社会で必要なしごと力を学べるプログラムの開発を進めます。

(2) 自治体DX推進支援

令和2年12月、政府において「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」が決定され、目指すべきデジタル社会のビジョンとして「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会～誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化～」が示されました。

また、令和4年6月、「デジタル社会の実現に向けた重点計画」が閣議決定され、このビジョンが目指すべきデジタル社会のビジョンとして改めて位置づけられました。このビジョンの実現のためには、住民に身近な行政を担う自治体、とりわけ住民との距離が近い市区町村の役割は極めて重要になります。

AVCCでは、長年に渡る市区町村をはじめとした自治体との信頼関係のもと、自治体を中心としたDXの推進においてもシステム面のみならず、各種計画の策定支援から情報セキュリティ確立のための体制整備支援に至るまで、様々な角度から自治体や各種機関のDX推進支援を行います。

自治体DXの重点取組事項	
①	自治体の情報システムの標準化・共通化
②	マイナンバーカードの普及促進
③	自治体の行政手続のオンライン化

④	自治体のAI・RPAの利用推進
⑤	テレワークの推進
⑥	セキュリティ対策の徹底

自治体DXの取組とあわせて取り組むデジタル社会の実現に向けた取組	
①	デジタル田園都市国家構想の実現に向けたデジタル実装の取組の推進・地域社会のデジタル化
②	デジタルデバйд対策
③	デジタル原則に基づく条例等の規制の点検・見直し

-1 DX推進による課題解決支援

地方を中心に自治体職員の減少や削減が進む中、AIやSNSを活用した窓口業務の効率化や住民サービスの向上、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を活用した単純入力業務の自動化等、新たな情報化技術を取り入れている自治体も増えてきています。

業務システム最適化コンサルティングを行うことで、対象業務の効率化やコスト削減とともに、関連業務や組織（部課）への影響や波及効果等も考慮したDX提案も必要に応じて行います。

-2 地域情報化計画策定支援

地域情報化計画は、自治体の総合計画を情報面から実現のために支援する計画です。今後の情報化指針等を、国や都道府県の動向等を交えながら地域の情報化計画を住民に示すものとして策定されてきました。



図-8「地域情報化計画」の位置づけ

AVCCでは、ほぼ毎年、地域情報化計画策定支援に係わっています。計画策定では、国や

都道府県の情報化政策の分析の他、該当自治体の全部門に対するアンケートやヒアリングを実施します。継続して計画策定に係ること、自治体が抱える課題や課題解消に向けた対応について、現場レベルでの自治体情報化に向けたノウハウの蓄積を行うこともできます。今後は地域情報化計画を官民データ活用推進計画の他、DX推進計画としても活用できるようになりますので、自治体DXを計画段階から支援する業務として地域情報化計画の策定を推進いたします。

-3 高機能消防指令システム更新支援

高機能消防指令台システムは、119番通報の受付、災害通報の覚知、出動車両の自動隊編成、出動指令、現場作戦支援を統括する指令管制操作の主装置部になります。全国消防本部（726本部）では老朽化等による故障を未然に防ぐため、定期的な指令台システムの更新を行っており、今後5年以内に全国の消防本部で高機能消防指令システムの更新が行われることになります。

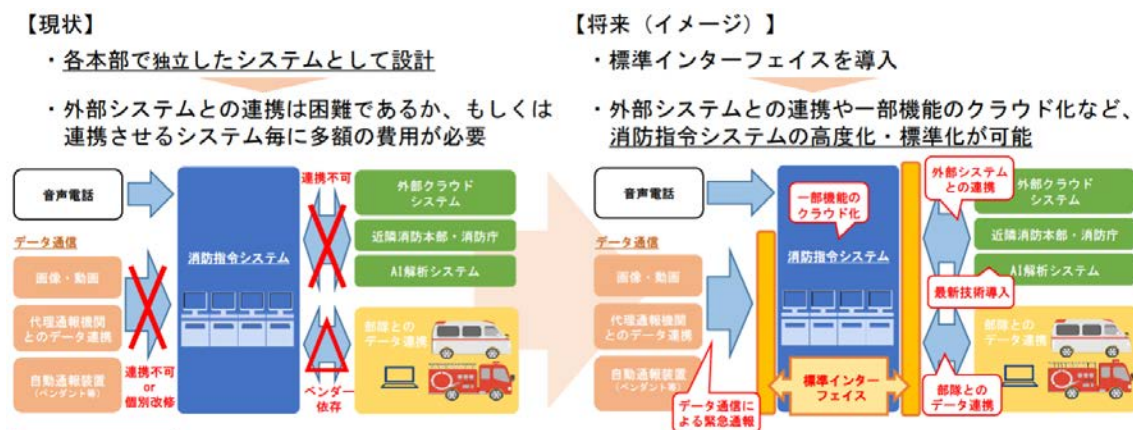


図-9 高機能消防指令システムへの更新イメージ図～総務省消防庁防災情報室 検討資料より～

AVCCでは令和4年度に島根県浜田市で浜田消防本部の高機能指令台システムの更新設計を受注し、実績をつくりました。今後本格化する同システムの更新支援に対し、実績を積み上げる予定です。



※浜田市消防本部
高機能消防指令センター（現況）



(3) NICE-NET教育番組制作

-1 遠隔教育NICE-NET教育番組制作・配信

①NICE-NET教育番組制作

NICE-NETは大手生命保険会社が行う動画Web配信サービスであり約5万人対象の社内教育ネットワークの総称です。コロナ禍でこれまでのような撮影班が現場に行き取材することが困難な為、撮影方法、必要な映像等事前にすり合わせを行い、デジタル（Zoom等）を活用した取材やお客様がスマートフォンで撮影した映像を元に編集して番組制作を行います。

- ・営業職員向け動画教材（商品研修／マナー／コンプライアンス）
- ・管理者向け教材（好取り組み事例紹介）

②NICE-NET配信登録業務

令和5年度は29年間続いた衛星通信を使った配信システムから新たに地上系ネットワークを使った配信システムへとリニューアルされ“新NICE-NETスタートの年”となります。これまで培った経験を生かし、引き続き安定運用に努めてまいります。

(4) 新NICE-NETサービス

令和5年4月から、大手生命保険会社様の営業職員向けに、インターネット回線とAmazon Web services（AWS）、動画配信基盤（Jstream Equipmedia）を利用した新たな「NICE-NETサービス」を提供いたします。

-1 新たなNICE-NETサービスの提供

新たな「NICE-NETサービス」は、今までの通信衛星を利用した配信方式ではなく、(株)Jストリームが提供する動画配信基盤（Jstream Equipmedia）を利用し、ユーザー管理・コンテンツ管理・視聴履歴管理などの機能を Amazon Web services（AWS）に集約し構築しました。

視聴側は、お客様にて用意したインターネット回線とタブレット(apple iPad)を大型モニタに投影し、コンテンツ番組一斉視聴と生放送の視聴が行えます。また、本部からのお知らせ等は、サイネージ表示されます。

NICE-NETサービス システム概念図

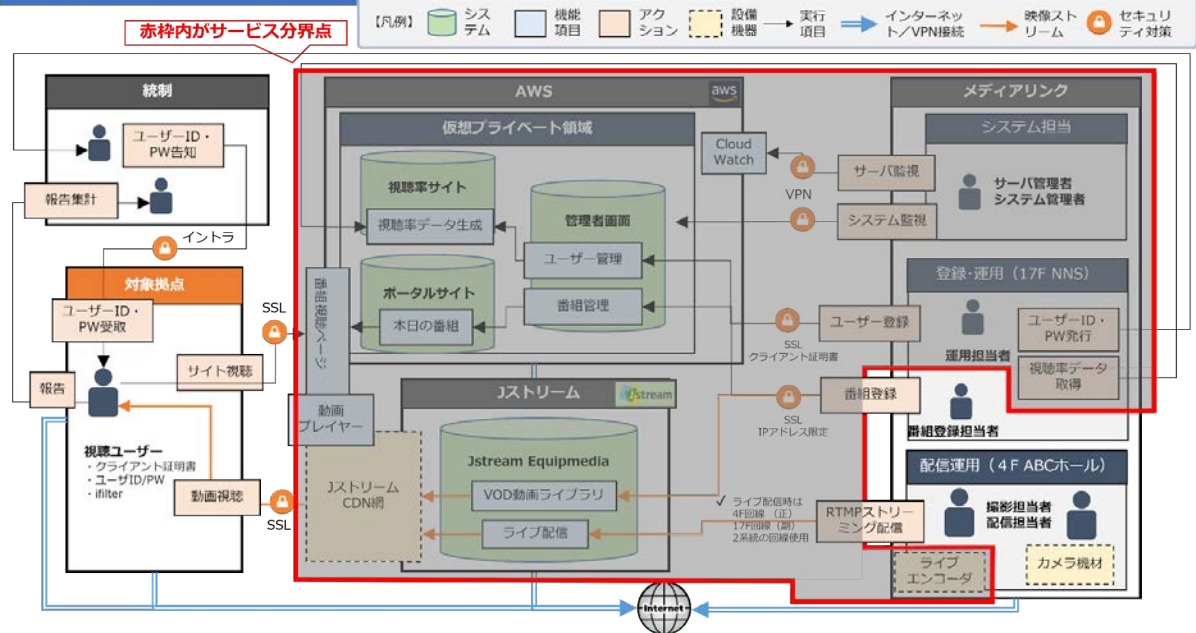


図-10 NICE-NETサービス システム概要図

①NICE-NETポータルサイト

NICE-NETポータルサイトは、大手生命保険会社様の営業職員が利用するユーザー画面です。画面にアクセスするには、各視聴端末（apple ipad）にインストールされているクライアント証明書およびユーザーID・パスワードの2段階のセキュリティ認証が必要となります。

トップページは、サイネージ表示、本日・今月の番組の表示、システムからのお知らせ表示から構成されており、番組一覧表示、番組検索、マニュアル・Q&Aなど容易に操作できる画面構成としています。

視聴履歴画面では、今までに視聴した番組を一覧形式や番組別の視聴状況を確認することができます。また、支社は管理下にある営業拠点の視聴状況についても同様に確認することができます。

②保守・運用サービス

保守・運用サービスとは、「NICE-NETサービス」を安定的また継続的にサービス提供できることを目的に保守・運用を行います。

大きくは、営業拠点の維持増や組織改編に伴うユーザーID管理、視聴率データの抽出及び担当部署への連携、NICE-NETポータルサイト・動画配信基盤の監視など日々のサポート業

務と、全国2,500余りの拠点を対象に「NICE-NETサービス」や視聴するための周辺機器に対し、ヘルプデスクを設置し、障害ポイントの切り分け業務及び各々の対応窓口への連携を行います。

その他、視聴端末（apple iPad）やブラウザ、アプリケーションのバージョンアップ、その他サービス仕様の変更など「NICE-NETサービス」を将来的に維持する体制整備も行っています。

（５）TV会議システム／Web会議システムの構築、運用、保守管理業務

コロナ禍以降では一部の参加者は自宅のPCやスマートフォンで会議に参加するようになった為、会議室と自宅からの参加者の何れも、それぞれがWeb会議に接続し、リアルとバーチャルのハイブリッドな会議形式に変容しました。AVCCでは Valuableなコミュニケーションの実現を目指し、既存TV会議システムを利用するリアル参加会議とリモート参加のハイブリッドなWeb会議で実現する、ネットワーク設計・支援、TV会議システム及びAVシステムの更改・保守管理業務を行います。

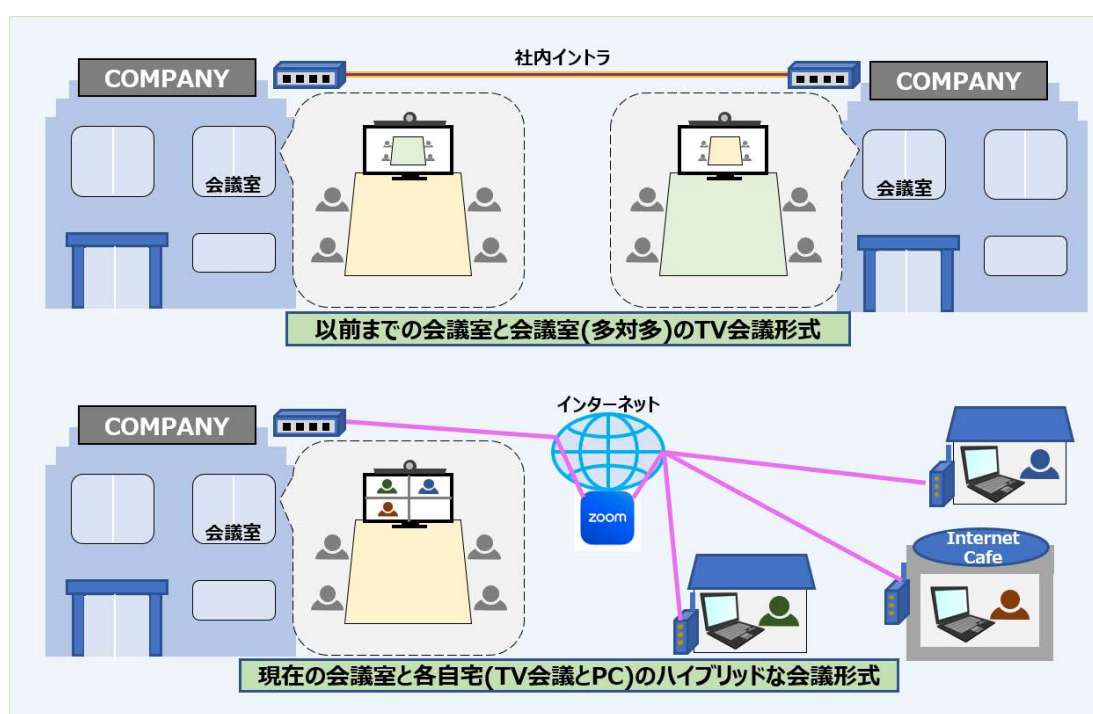


図-11 会議形式の変化

-1 独立行政法人国際協力機構(JICA)

令和5年度も引き続き、JICA内に業務従事者を配置し、TV会議システム、Web会議システムの運用業務や付随する業務を行います。

-2 大手生命保険会社グループ

次期TV会議システム（インターネット網の利用、イントラネットとの統合、Web会議との接続）導入に向けて、顧客と共に以下の事項について検討してまいります。

（6）動画教育教材の企画・制作業務

令和5年度は、引き続きリアルとリモートのハイブリッド運営について継続しながら、会社等現場への出社を控えた在宅での収録・編集作業の実施、ハイブリッドイベントの配信やWeb会議システムとの融合等新しい働き方を模索してまいります。そして、他者と自分の考えを咀嚼し違いを認め共通項を見出し、有用性の高いコミュニケーション・教育訓練に関するコンサルティングを行い、その社会実装を支援してまいります。

-1 イベント中継支援業務

これまでは主にライブでのご視聴の中継を多く手掛けてまいりましたが、参加型のイベント要望におこたえすべく今後はインターネット配信、Web会議システムを使ったハイブリッド双方向のイベント開催で、お客様の内容・規模・予算等のご要望にお応えしてまいります。

-2 動画教材企画・制作業務

もっと手軽にセミナーを開催したい、もっと簡単にスタジオ収録を行いたいという声にお応えするために、企業研修教材VP制作をはじめセミナー開催など、三番町スタジオ、KK²スタジオの2つのスタジオを主体に、機動力を生かしたシステム提案と、学習者に考えるテーマと考える時間を与えられるような有用性の高い動画教材制作を支援します。

-3 その他各種教材企画・制作業務

Web会議やセミナーの開催はできるようになったけれど、エビデンスが残らない、アンケートなどのデータは収集したものの活用ができていない等のお問い合わせが増えております。

そこで、DPPを積極活用したKK²ブレンデッドラーニング提供業務をはじめ、KK²が提供するLMSを利用する企業、団体のコンテンツ管理、受講者登録管理等の運用を通じて新しい形の企業内教育を支援してまいります。また、企業様と共に考え教材開発にも積極的に取り組んでまいります。

(7) 各種運営支援業務（映像情報システムの構築、運用、保守管理業務）

公共施設、学校、企業等に設置されている映像情報システムを対象に、システムの保守管理業務や運用業務の支援を行います。また、コロナ禍により加速する、授業・講演のオンライン化対応の為にシステムリニューアルの提案や、双方向に映像音声通話を想定したオンライン対応のValuableな会議室等の設計・ご提案といった、Society5.0に則した新たな映像情報システムの構築を行っていきます。

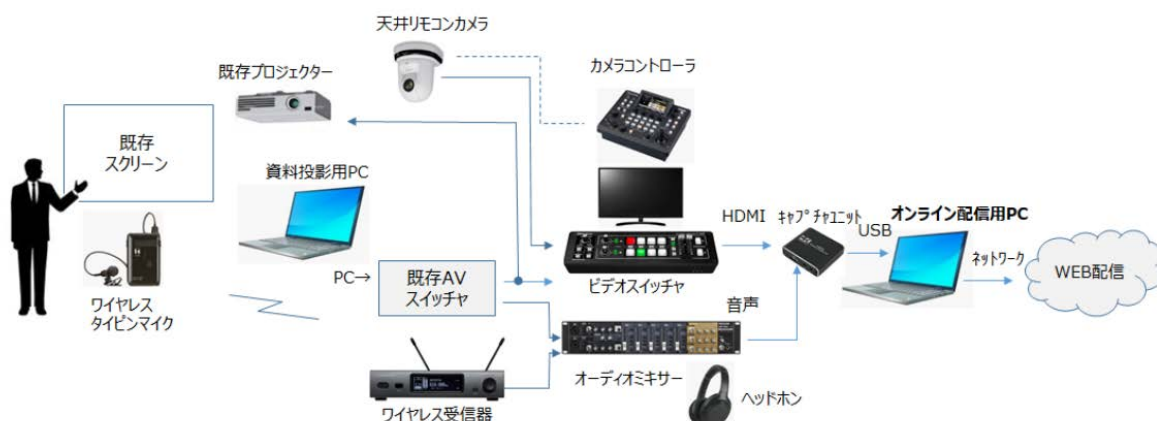


図-12 オンライン配信可能な映像情報システムイメージ

- 1 大手生命保険会社 丸の内ビル
- 2 大手生命保険会社総合研修所
- 3 千葉県松戸市教育委員会
- 4 (公財) 松戸市文化振興財団
- 5 学校法人昭和女子大学
- 6 学校法人松本歯科大学
- 7 学校法人愛知大学東京霞が関オフィス
- 8 日本アムウェイ合同会社
- 9 東京美装興業

Ⅲ KK²ブレンデッドラーニングによる人材育成支援

(1) 組織内でのデジタル寺子屋

私たちはAVCCの職員としてデジタル社会で求められるしごと力を、図-13のようにA～Fの六項目にまとめ、各項目を細分化したコンピテンシー・インベントリーを作成し、各コンピテンシー毎に質問・チェックするDSC(デジタルしごとカチェック)を令和4年11月に公開しました。一年間ほどAVCCの職員有志が議論し作成したものです。

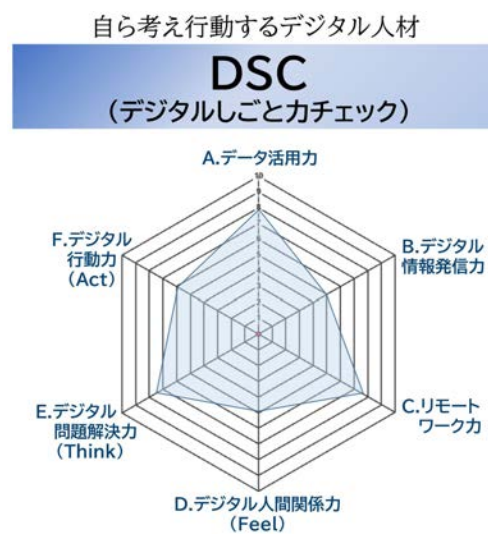


図-13 DSC(デジタルしごとカチェック)

DSCは単に各人がセルフチェックをするだけでなく、そのスコアに応じて推奨する学習教材を提示する仕組みとなっており、チェック後に各人が自学自習できるものとなっています。推奨教材を各組織が用意することはとても大変なため、KK²の既存教材から選定することと、WEBサイトの中で教材として相応しいサイトを[good site]として選定しています。オリジナル教材の開発公開も出来ることは進めますが、科学技術の進展とそれに関するWEBサイト等変化はますます加速しています。ChatGPTのような対話型AIシステムによるサポートも視野に入れ日々アップデートしてまいります。

人材育成をすすめる組織ではこのAVCC版DSCをたたき台にして、組織独自のコンピテンシー・インベントリーを整備し、その組織と働く人の強み弱みを把握し、組織内での学び合いを促進することでしごと力を向上し働き方を変えることができます。組織内での研修の指南役は相応しい方を組織内で選定し、KK²ブレンデッドラーニングを活用して対面学習・オ

オンライン学習・オンデマンド学習によりできるだけ多くの方々に学習機会を用意し、ある分野の指南役は組織内での対面・オンライン・オンデマンドの照会対応を行い、コンピテンシー向上、エンゲージメント向上、コミュニケーション向上に寄与してまいります。

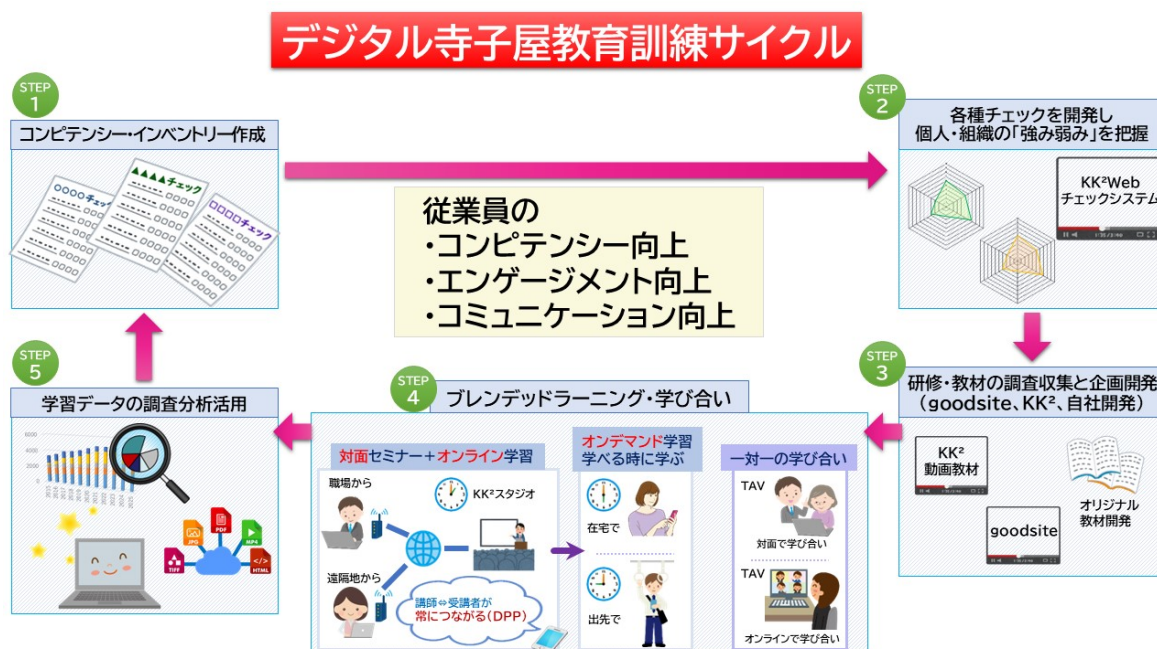


図-14 デジタル寺子屋教育訓練サイクル

(2) KK² DPPによるブレンデッドラーニング

KK²サイトには、組織内でのブレンデッドラーニングを実践することができるDPP等人材育成サポートプログラムを実装しています。

KK²デジタルプレゼンテーションプラットフォーム（以下、DPP）は、「リアル研修／集合学習」「ライブ学習」「オンデマンド学習」の三つの学習形態で、アナライザ（Response Analyzer）を活かした「Two Way Communicationの実践」と「Digital Transformationの支援」を提供しています。

-1 DPPによるDigital Transformationの支援

「試験」「コメントシート」「質疑」等、講師と学習者（リアル+バーチャル）間で情報をすべて紙ベースからオンライン化し、データとして管理します。集計・添削・質問への回答を効率的に行うことができ、文字が見やすく、講師の「負荷軽減」「働き方改革」を支援します。

以下にDPPの概念図を示します。

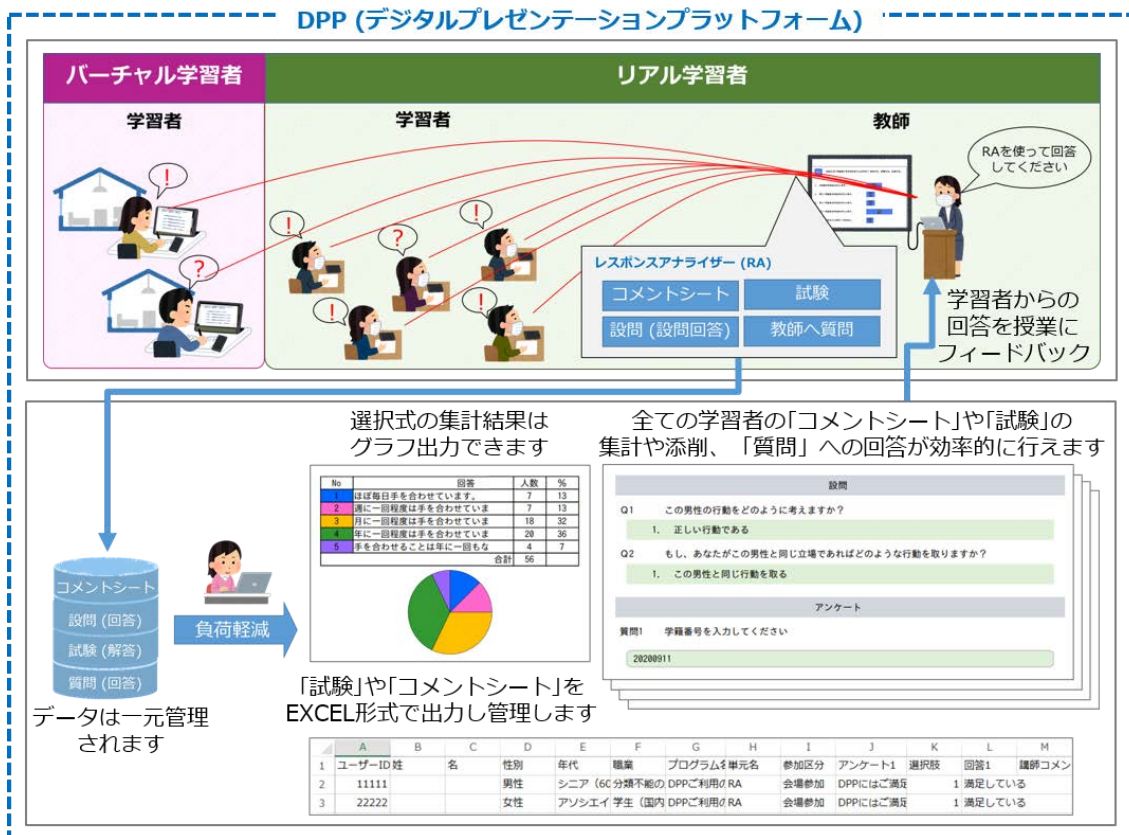


図-15 KK²デジタルプレゼンテーションプラットフォーム (DPP) 概念図

※KK²デジタルプレゼンテーションプラットフォーム (DPP) は、協力会社である株式会社メディアリンクにより、特許番号：第6507328号、第6582262号、第7231146号 を取得しています。

①多岐選択式セルフチェックシステムの提供

様々なリテラシーを測るため多数の多岐選択質問に回答することで、学習者自身の理解度とグループ内の「順位」等を知ることができます。また、同時に提示される「アドバイス」と「おすすめコンテンツ」は、学習者を動機付けし「自学自習」をサポートします。

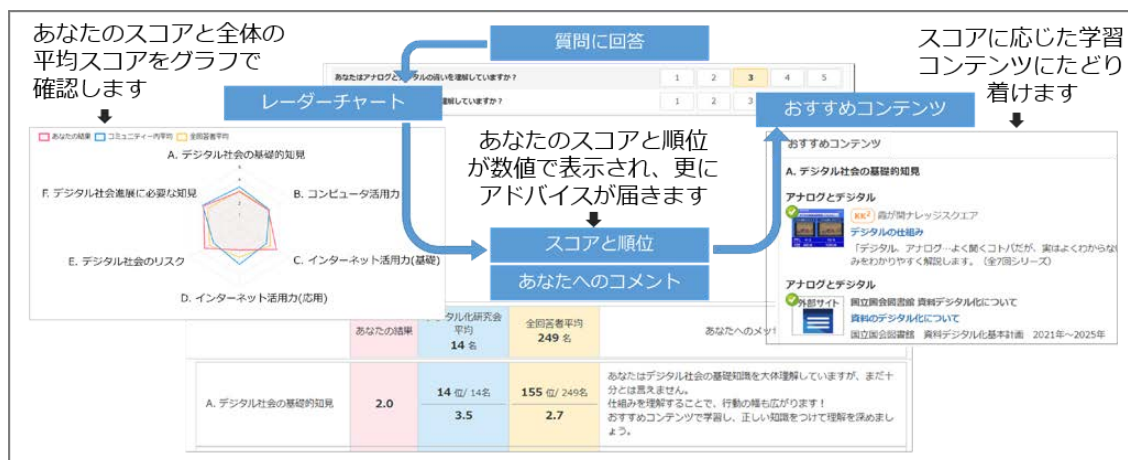


図-16 多岐選択式セルフチェックシステム概念図

現在、「[デジタル活用力チェック \(DKC\)](#)」「[デジタル仕事力チェック \(DSC\)](#)」として実装していますが、様々なチェックシステムとして、例えば「インフォメーション・ヘルス・チェック (情報的健康力)」など多種多様な分野への拡大を図ります。

②テキストベース個別学習システムの提供

学習者はテキストベースの教材により自学自習と実習を進めます。QRコードを読み取ることで参考データを見ることができ、TAV(Teaching Assistant Volunteer) がアドバイザーとして問い合わせに回答します。また、問い合わせの内容と回答は「FAQ」として蓄積されます。

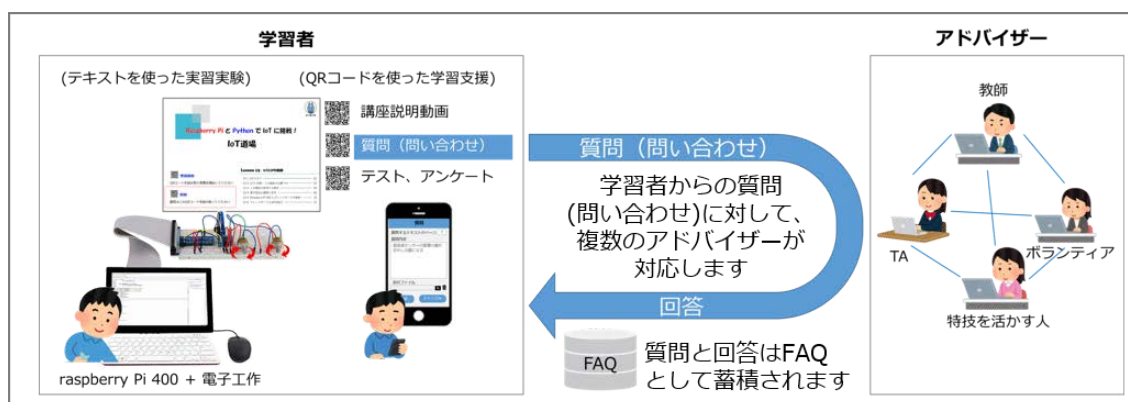


図-17 テキストベース個別学習システム概念図

テキストベース個別学習システムは、汎用性のある「Learning support system (LSS)」として開発を進めております。

（３）「KK²協賛メンバーページ」の提供

KK²事業は、協賛メンバー様の会費収入が事業収入の最も大きな柱となっており、メンバー様のニーズにお応えすること、また新規に入会いただける団体・組織様へのアプローチがとても重要です。現在32の団体・組織に入会いただいています。

KK²協賛メンバー様は、AVCCとの共催プログラムの企画・開発や、オンラインセミナー開催に最適な設備をメンバー価格での利用、オンラインコンシェルジェによるサポート、組織専用の学びのページ「協賛メンバーページ」や、KK²プログラムへの従業員の参加費割引、KK²LMSの利用など人材育成に活用いただけるサービスをご利用いただけます。KK²が提供する施設・サービスをご活用いただき、デジタル社会の人材育成や研修などにお役立ていただけるように推進してまいります。

（４）教育機関への働きかけ

KK²デジタルプレゼンテーションプラットフォーム（DPP）は、教育機関に対してもコロナ禍を境にして、複数の大学でオンライン授業、オンラインテストなどにご利用頂いており、講師の負担軽減や働き方改革に成果が出てきています。

そのようなDPPの利用事例を活かして、令和4年度から中学校の授業でのDPP利用を進めてまいりました。令和5年度も引き続き、KK²/LMSとDPPを組み合わせた形での利用を支援してまいります。

Ⅳ 誰も置き去りにしないデジタル社会へ

(1) コミュニケーション環境整備支援（インフラ）

Valuableコミュニケーションを推進するには、コミュニケーションを行う有線・無線インフラの高速化・大容量化が必要になります。AVCCでは、今まで数多くの自治体でインターネット通信環境、多重無線や光ファイバーケーブル等による情報通信ネットワークを構築してきました。

令和5年度も防災行政無線や多重無線、光ファイバーケーブル等の他、5G等の新たな通信技術も取り入れ、Valuableなコミュニケーションを行うためのインフラ環境整備の設計及び施工監理業務を行います。

-1 各種無線インフラ設計

市町村防災行政無線を中心に、消防無線、多重無線（ヘリテレ含む）整備のための調査・設計を行います。

防災行政無線についてはアナログシステムからデジタルシステムへの更新は、主だった自治体では終了してきていますが、未だアナログシステムの自治体もあり、老朽化への対応を含め、デジタル化を含めた高度通信システムへの移行が求められます。

また、早々にデジタルシステムに更新した自治体では、老朽化による更新が始まっており、今後も他の情報伝達方式も検討しながら調査設計業務を継続します。

	市町村防災行政無線整備率	うちデジタル無線整備率
北海道	83.2%	60.3%
東北	88.1%	82.4%
関東	93.0%	85.4%
信越	93.5%	86.9%
北陸	74.5%	64.7%
東海	93.1%	85.0%
近畿	82.3%	74.7%
中国	84.1%	72.9%
四国	81.1%	69.5%
九州	80.7%	75.5%
沖縄	87.8%	78.0%
全国	86.7%	77.5%

図-18 R3年度同報系無線整備率（総務省）

※令和4年度、山口県周防大島町でデジタルシステム更新にて受注。

-2 各種有線インフラ設計

国内の高速ブロードバンドと言われる光ファイバ網の整備率は、令和2年で99.1%となっていますが、未だ未整備世帯が約53万世帯あります。

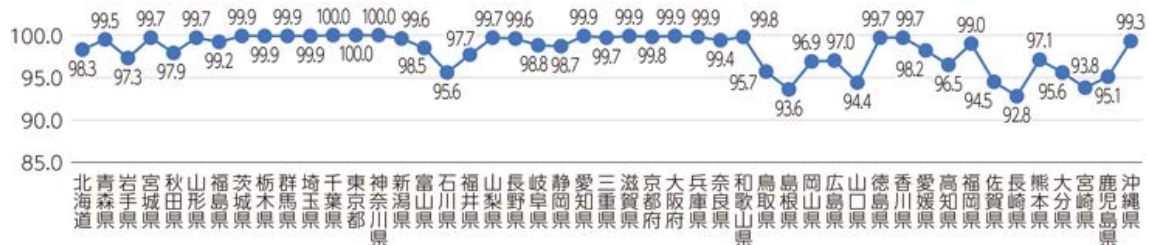
また、平成20(2008)年に「2015年までにブロードバンド利用率100%を目指す」（光の道構想）という名目で、全国の自治体が総務省の補助事業で整備した光ファイバ網も更新の時期に来ており、今後は幹線からラストワンマイル引込工事への5Gの活用を含め、デジタルデバイドの解消とコミュニケーションインフラに向けた調査設計業務を継続します。

全国の光ファイバ整備率

令和2年3月末 **99.1%**
(未整備53万世帯)

※住民基本台帳等に基づき、事業者情報等から一定の仮定の下に推計したエリア内の利用可能世帯数を総世帯数で除したものの(小数点第二位以下を四捨五入)。

都道府県別の光ファイバ等整備率



(出典) 総務省「情報通信白書(令和3年度版)」

図-19「全国の光ファイバ整備率と都道府県別の光ファイバ整備率」

(2) デジタル公民館®プラットフォーム

KK²Webサイトは「デジタル公民館®」活動のプラットフォームとして、様々な機能が備えられています。1,900本を超える動画(レビュー、テスト、設問回答機能)、プログラムへの申込み機能、学習履歴が表示されるマイページ機能に加え、Ⅲの(2)で記載したDPP機能やチェックシステム、施設の貸出管理など、いつでもどこでも学べるデジタル公民館®として、継続して新規機能の開発、コンテンツの拡充をしてきました。しかし、リニューアルして時間もたち、事業の実態との乖離も出ているところもあり、KK²Webサイトの見直しを進め、学びのプラットフォームとしてのわかりやすさ、サービス向上を目指します。令和5年度は、主に以下について着手を予定しています。

-1 カテゴリの再整理

現在、「いつでもどこでも学べるデジタル公民館」(AI社会を生きる力を考える・個人のレジリエンスを学ぶ・組織・地域を担うしごと力を学ぶ・文化に親しみ交流する・教育のデジタル化【DPP】)と「KK²をご利用下さい」(レンタルスペース・エキスパート倶楽部・KK²メンバー制度)の大きく2つの柱のカテゴリとなっています。それぞれのカテゴリの見直し、トップページで発信する情報の整理に着手します。

-2 公開動画の見直し

現在公開している約1,900本の動画については見直しを行い、内容・制作時期などを勘案し適切なものを取捨選択します。また、学習者がアクセスしやすいように講師別・テーマ別等で整理を行います。

-3 KK²Web会員機能の見直し

KK²Web会員ができる機能について整理します（メールマガジンの登録、動画の視聴・テスト・レビュー、マイページ機能・プログラムの申込み機能、レンタルスペースの仮予約機能など）。

-4 学習サイクルの見直し

最初にDPPのチェックシステム（DKC、DSC等）を行い自分の状況を知り、その後自分に必要な学びの教材が表示されることで効率的に学べる学習サイクルの実現に向けて検討を行います。

（3）テレボーサイ・サービス（情報格差是正支援）

令和3年度より、災害時、緊急時等における情報格差是正の支援事業として「テレボーサイ・サービス」の開始に向けた準備を進めています。自治体から住民等に向けた各種情報（行政情報、災害・緊急情報等）を、操作が容易な専用端末向けに提供するサービスです。

現在、サーバからのサービス配信機能は概ね完成し、専用端末のベータ版の開発を行っています。ベータ版専用端末は20台製造し、令和5年5月以降、自治体を中心とした実証実験を順次開始する予定です。実証実験の検証結果により、令和5年度内からのサービス提供開始を目指しています。

-1 テレボーサイ・サービスの目的

テレボーサイ・サービスでは、他システムとの連携の容易さと高齢者や情報弱者に配慮した専用端末を使用することにより、以下のサービス実現を目的として開発を進めています。

- a. 複数の情報提供手段からの情報提供が行えること
- b. 情報弱者でも容易に操作可能な情報通信機器であること
- c. 利用者のハンディキャップ等に配慮した情報提供が行えること

- d. 個人宅等へも容易に設置できる情報通信機器であること
- e. 導入や継続運用が容易に行えるサービスであること

-2 テレボーサイ・サービスの概要

テレボーサイ・サービスの構成及び本サービス専用の情報通信機器（以下、専用端末）について概要をご説明いたします。

（以下、①～⑤は、図-20内番号と整合しています。）

- ① 既設パソコンのブラウザから配信したい文章等を入力します。
- ② クラウドサーバで入力した文章を音声データへ変更します。
- ③ クラウドサーバからは、LTE回線経由で音声・文字データを配信します。
- ④ 専用端末を通じて音声・文字放送を配信します。

（他、フラッシュ・サイレン・メール連携機能等）

- ⑤ 各種サービスの監視、コールセンター、保守等はAVCCが行います。

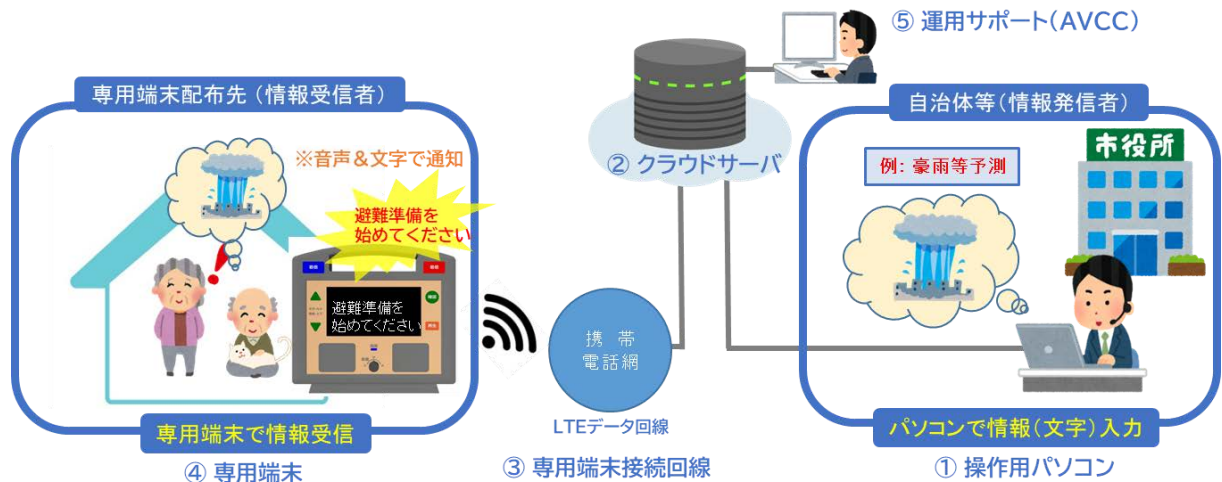


図-20 「テレボーサイ・サービス構成イメージ」

（４）「大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定」（東京都千代田区）

AVCCは千代田区と「大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定」（平成27年2月）を締結し、発災時には帰宅困難者等を一時的にKK²「エキスパート倶楽部」と「スタジオ」に受け入れます。令和5年度も、千代田区の防災無線訓練の実施（月1回）に加え、AVCCのBCP/BCMの取組みの一環として各種マニュアルの整備、備品の点検等を行います。

V 組織のデジタル化支援

(1) 法人向けデジタル化支援事業

内閣府がまとめた、「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」によると、令和3年10月時点のテレワーク率は従業員1000人以上の企業では46.7%に対し、従業員30人～299人の企業で26.7%、2人～29人の企業に至っては20.9%でした。企業規模により、テレワーク率が実に半分以下であるという実情が明確となりました。

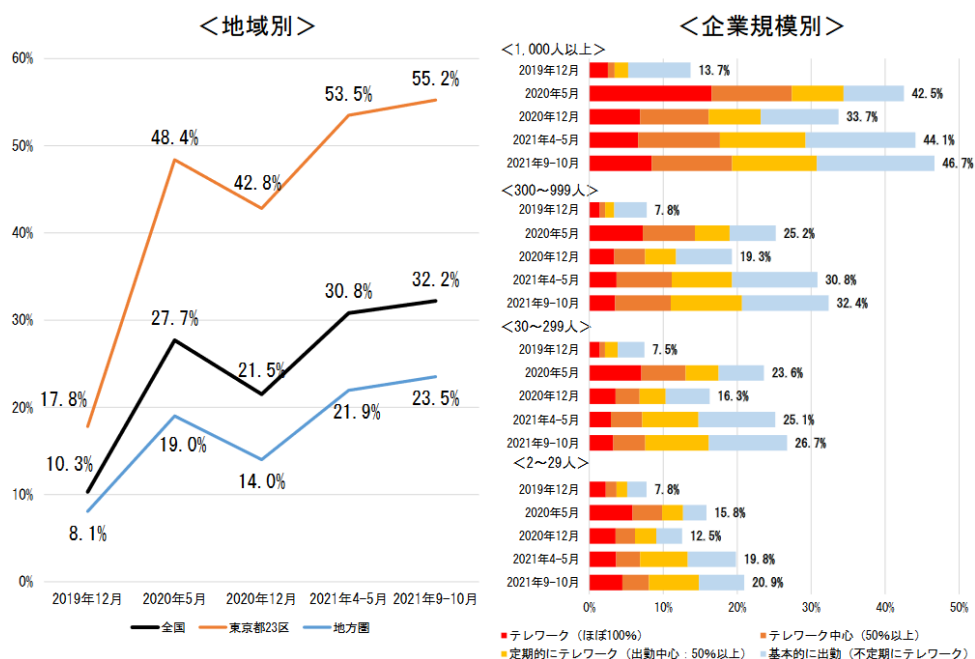


図-21 【働き方】地域別・企業規模別のテレワーク実施率（就業者） 出典：内閣府（2021）

AVCCではデジタル社会の実現に向けて、テレワークを始めとしたデジタル化が遅れている中小零細企業が個別に抱える環境や課題に対し、調査・設計・構築業務・運用保守・問い合わせ対応といった、トータルコンサルティングとしての活動を行います。

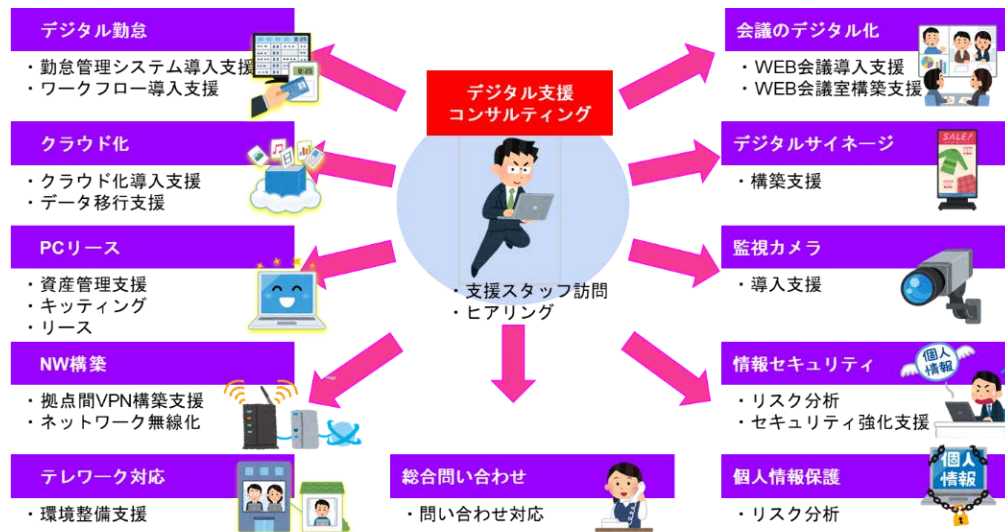


図-22 「デジタル支援コンサルティングイメージ」

(2) KK²オンラインイベント支援事業

KK²事業収入の柱であるレンタルスペース事業は、Web会議やライブ配信などのオンラインと会場での対面を組合せたハイブリッドでの開催ニーズが急速に増加しています。また、オンラインイベントの申込みから、本番開催時のオンライン運用支援、収録・編集、オンデマンド公開、DVD制作など、総合的にオンラインイベントを支援する機会も増え、KK²オンラインイベントコンシェルジュが最適なオンラインイベント開催をご提案させていただき、ご担当者の業務の負荷軽減のサポートにもお役立ていただいています。



図-23 スタジオを利用したハイブリッド委員会のイメージ

令和4年度から、ラウンジもWeb会議専用マイク・スピーカー・カメラを常設し、ハイブリッドのWeb会議に最適な環境をそろえてレンタルスペースとして提供を開始しています。



図-24 ラウンジを利用したハイブリッド会議のイメージ

更に、交流カフェ エキスパート倶楽部も、Wi-Fi、大型モニタ、天吊りのハイビジョンカメラやWebカメラを活用したハイブリッド会議にもご利用をいただいています。



図-25 エキスパート倶楽部を利用したハイブリッド会議のイメージ

令和5年度も、急速に変化する社会の動向や技術をキャッチアップし、ニーズに合わせたサービスを提供できるよう、スタッフのスキルアップを含め進化を続けてまいります。また、広報PRを強化し利用率の向上を目指します。

(3) デジタル情報発信・運営の支援

Webサイトでの情報発信や、メールの運用、問合せの運用など、対外への情報発信や内部での運用に課題のある組織の方のご相談にのり、運用支援を行います。

- ・某大学校学友会 ホームページ運用業務
- ・全国重症心身障害児(者)を守る会 Webサイト運用業務
- ・大手ビル管理会社 サーバ運用業務

VI ステークホルダーとの関係

(1) AVCC賛助会、KK²協賛メンバーとの連携強化

AVCC賛助会、KK²協賛メンバーなどご支援いただいている皆さまへ各年の事業テーマに則した講演会を開催しています。令和5年度は、5月26日(金)に2部構成で、AVCCの令和5年度事業説明と、山本龍彦氏（慶應義塾大学大学院法務研究科 教授/近著「デジタル空間とどう向き合うか」）をゲストにお迎えし「第5回デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～」を開催します。（P10 I（1）参照）

(2) MOU締結組織

AVCCと相互協力協定（MOU）を締結している団体とは、KK²プログラムの企画・開発や、AVCCコンサルティング事業の支援、デジタル公民館®活動への協力など、多方面でご協力をいただいています。令和5年度も、相互の事業に有益な活動を進めてまいります。

「MOU締結組織一覧」

一般社団法人 話力総合研究所
株式会社タフ・ジャパン
株式会社テラユナイテッド
社会福祉法人 むそう
やねだん自治公民館
社会福祉法人 スマイリング・パーク
一般社団法人 長洞元気村
NPO法人「居場所」創造プロジェクト（居場所ハウス）

-1 多様な方たちの働く場 交流カフェ「エキスパート倶楽部」～シェア型書店機能を新設～（むそう様）

エキスパート倶楽部の一般営業（ランチ・カフェ業務）は、障害のある方達の働く拠点の一つとして社会福祉法人むそう様に運営協力をしていただいています。

令和5年度は、シェア型書店を併設し、多様な情報の発信の場として活用を促進します。約70個の棚を設置、棚主を募集します（月額有料制）。書棚のテーマは棚主が自由に設定し、

自分で値付けした本を設置、販売ができますので、多種多様なユニークな書店が霞が関に誕生します。むす様の情報発信やオリジナルの物販の棚も設置し「いつでも、好きな場所で暮らし、たいせつな人と、したいことができる街を作りたい。」というコンセプトの発信・交流の場としても活用を予定しています。

（３）KK²Web会員

KK²Web会員は、アソシエイト、リーダー、シニアの３つの年代層、職種も多様な方々です。世代を超えた多くの方に学びの場として活用いただけるよう、魅力ある学びのプログラムを推進し、KK²Web会員の皆さまが学びの一步を踏み出し、実際に行動を起こしていただけることを目指して活動を行います。

（４）文部科学省発行「マナビィ・メールマガジン」定期掲載

文部科学省総合教育政策局が発行する生涯学習関連情報のメールマガジンにKK²プログラムの紹介記事を寄稿しています（毎月2回 8日号/24日号）。令和5年度も継続して掲載していただきます。

（５）霞が関7号館PFI株式会社との事業連携

KK²が入居する霞が関コモンゲートを運営する霞が関7号館PFI株式会社は令和4年12月に出资者に変更になり東京建物株式会社が代表者を務めることになりました。出资者の変更に伴いKK²事業とPFI事業者とのスキームが新たな局面を迎えており、PFI事業者のご意向を待つ段階となっています。

（６）「千代田区霞が関三丁目町会」活動（東京都千代田区）

KK²は企業町内会「霞が関三丁目町会」に加入し、千代田区霞が関のデジタル公民館®として、町会の企業・組織の従業員の方たちの交流の場づくりに協力しています。令和5年度もレジリエントな地域づくりに貢献してまいります。

（７）社会への情報発信

KK²事業について各種SNSで、Web会員以外の方々へ情報発信を行っています。令和5年度も引き続き、利用者を増やしていくために効果的な情報発信を進めます。

KK²公式Facebook <https://www.facebook.com/KK2kasumigaseki/>

KK²公式Twitter <https://twitter.com/KK2Kasumigaseki>

KK²公式Instagram <https://www.instagram.com/kk2kasumigaseki/>

KK²公式YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCTn6A9AdcTgZhIBPX4ihESQ>

以上